


(基盤科目)

科目名	研究方法特別演習Ⅱ 英語名：Special Seminar on Study Method II	必修/選択	選択必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	細田 満和子	
【授業概要】 調査対象や研究テーマに応じて、最もふさわしいと考えられる研究方法を、吟味した上で選択し、実践してゆくために必要な知識とスキルを身に付けることを目標とする。研究方法には、フィールドワーク、事例研究法、統計的方法、歴史的方法、文献調査法など、そしてそれらを組み合わせたミックスメソッドもあるが、特にラポール（関係性）を作り上げながら現場のリアリティに肉薄するフィールドワークについて習得する。テーマや実施可能性に合わせて、ふさわしい調査研究法や調査対象者を選ぶことが重要だが、特に人を対象にした調査研究における、対象者の保護、調査後の公表に対しても責任を持つことの意味を理解できるようにする。				
【キーワード】 事例研究法、統計的方法、フィールドワーク、ミックスメソッド、研究倫理				
【授業の到達目標】 <ul style="list-style-type: none">・基本となる研究方法を学ぶこと。・学生が自分のテーマに関して、どのような方法で探求することができるかを判断する能力を身に付けるようになること。・テーマに即した研究方法が実施できること。				
【スクーリング実施の有無】 スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本演習のねらい・進め方			
2	調査することの意義 –フィールドからの教え–			
3	社会調査の意味–なぜフィールドを調査するのか–			
4	社会調査の歴史–保健医療や生産性の歴史を変えた重要な調査などの紹介–			
5	社会調査を行う上での研究倫理			
6	研究方法 –エビデンスとして理解されやすい統計的方法–			
7	研究方法–ケースを重ねて理解を促進する事例研究法–			
8	研究方法–現場にとことん寄り添うフィールドワーク–			
9	研究方法–2次データの使い方を知る歴史的方法と文献調査法–			
10	調査の計画と準備			
11	テーマにあった研究方法の選び方–理論編–			
12	テーマにあった研究方法の選び方–実践編–			
13	それぞれの研究方法の可能性			
14	それぞれの研究方法の限界			
15	研究方法のまとめ			
試験				
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 指定された教科書を読み、理解しておく。				
【スクーリングでの学修内容】 スクーリングでは、上記に挙げた基本的な研究方法について理解することを促進する。自分の博士論文のテーマはそれぞれの方法ではどのように展開できるかシミュレーションを作成し、学生同士で評価し合う。 学修の初期のスクーリングでは、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何を目指すか				

を学生と教員が相互に確認するために行う。事前学習として教科書を熟読し、内容を理解することが求められ、スクーリング後には、博士論文のテーマを追求するためにいかなる研究方法が取りうるかを熟考することが求められる。

学修の終期のスクーリングでは、事前学習として博士論文を作成する際に、どの研究方法を使用するかを検討するレポートを作成し、提出してもらおう。そしてスクーリング時にプレゼンテーションをしてもらおう。終期のスクーリングの事後学習では、適切な方法を用いて研究を展開できる事が期待される。

以上、こうしたスクーリングは合計 4 コマ 6 時間以上をめどに行う。

【評価方法】

合否については、研究計画・方法に関するプレゼンテーション・レポート（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。

【テキスト】

Hosoda, M. (2019). Chapter 11 Qualitative Data Analysis, *Researching Health: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods*, edited by Saks and Allsop, pp.203-224, Sage, London.

【参考図書】

盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年

佐藤郁也『社会調査の考え方（上）』東京大学出版会、2015年

【教員メッセージ】

研究テーマに合わせた研究方法を選ぶことは重要です。本授業で、比較検討したうえで研究方法を選ぶことを学修し、博士論文作成に役立ててほしいと思います。

【備考】

特記事項なし